

## 令和3年度第4回行財政改革審議会議録

日 時

令和3年8月17日（火）午後2時～3時

場 所

流山市役所 第1庁舎3階 庁議室

出席委員

浅川委員、石合委員、井田委員、石田委員、岩淵委員、  
岡村委員、首藤委員、洞下委員、森委員（9名）

傍聴者

1人

欠席委員

近藤委員、重村委員、古屋委員、山中委員、横山委員（5名）

事務局

総合政策部 須郷部長

情報政策・改革改善課 佐藤課長、齊藤課長補佐

仕事カイゼン係 房野係長、芝吹主事

議題

（1）答申（案）について

（2）その他

添付資料

・「まちづくり報告書」による行政評価について（答申）（案）

## 議事録（概要）

（会長）

定刻となりましたので、第4回流山市行財政改革審議会を開催いたします。

なお、予めご報告申し上げますが、流山市では「流山市審議会等の委員の選任及び会議の公開等に関する指針」を策定し、審議会等の会議は原則公開とする旨規定しております。本日も、既に、傍聴人の方々にお入りいただいているところですので、あらかじめご了解いただきたいと思います。

また、近藤委員、重村委員、古屋委員、山中委員、横山委員の5名からは、所用により欠席の連絡をいただいております。現時点での出席状況は、流山市行財政改革審議会条例の規定人数に達しておりますので、会議は成立していることを、ご報告します。

それでは、本日の審議会の進行について、事務局から説明願います。

（事務局） 齊藤補佐

それでは、本日の進行について事務局より説明します。

まず、配布資料の確認をします。

- ・会議次第（資料番号なし）
  - ・「まちづくり報告書」について（答申）（案）
- 不足している資料などありませんでしょうか。

なお、開催通知において、「令和3年度版まちづくり報告書」をお持ち頂くようお願いしましたが、お手元にごございますか。

～不足資料確認～

本日の進行ですが、まず事務局から答申（案）についてご説明させていただきますので、その後答申についてご審議いただきたいと思いますと考えております。

最後に、議題2「その他」としまして、答申までの予定についてご説明します。終了時間は15時30分を予定しております。

なお、会議に際しまして事務局からお願いを申し上げます。

市では現在、AIによる音声認識を活用した会議録作成支援システムの実証実験を行っております。システムの精度を高めるためには、音声クリアに録音されていることが必要です。

このため、大変お手数ですが、発言の折には、必ずマイクを使用し、冒頭で氏名を名乗ってください。また、発言後にはマイクの電源をオフにしてください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

(会長)

承知しました。

それでは審議を進めていきます。答申(案)について事務局からご説明をお願いします。

(事務局) 佐藤課長

答申(案)について、説明します。

～「まちづくり報告書」による行政評価について(答申)(案)読み上げ～

(会長)

ありがとうございました。

それでは、答申(案)について皆様のご意見を伺いたいと思います。本日の審議の進め方についてですが、まず、答申(案)の全体の流れや構成について皆さんにお尋ねしたいと思います。また、第1回～第3回審議会で出た意見が答申に反映されているか、或いは過剰な評価・表現となっていないか等についてもご意見があればお願いいたします。これらを一通りお伺いした後、表現や語句、その他お気づきの点等、細かい部分でも結構ですのでご指摘をいただきたいと思います。

それでは、全体の流れや構成について、ご意見があれば宜しくお願いいたします。いかがでしょうか。それでは、岡村委員から順番にご意見をお伺いして宜しいでしょうか。

(岡村委員)

前回の議事録を拝見した上で、この答申(案)の内容は妥当であるよ

うに私は思いました。

ただ、答申（案）2 ページ目にある「(3) 部局横断的な評価について」の箇所について、気になった部分があります。「部局横断的な対応が不明確であることから」と記載されていますが、まちづくり報告書に表記されている主管課とは、要は結果に対して責任を持つといった役割を担う課であり、また関連課についても、相応の責任を持つ課だと認識しています。いずれの事業においても主管課と関連課と一緒に業務を行わなければならないと思うんですね。このように理解をしていたものですから、不明確という表現を使用すると誤解を与えてしまうのではないかという気がしました。

（会長）

主管課、関連課という言い方そのものが誤解を与えると、そういう趣旨のご意見ということですか。

（岡村委員）

そうですね。まちづくり報告書の7ページ目に、主管課及び関連課の定義は記載されていますが、非常に簡単な書き方ということもあり、これを読んだとしても読み手の誤解は残るのではないかなと思います。

（会長）

ということは、主管課・関連課という名称、そしてその定義を今一度見直した方が良く、提言としてはそういった形になるのでしょうか。

（岡村委員）

そうですね。

説明を少し加えていただいたほうが良いのかもしれない。

（会長）

有難う御座いました。

他にはいかがでしょうか。それでは、首藤さん、お願いいたします。

(首藤委員)

私も岡村委員と同様、「(3) 部局横断的な評価について」の箇所についてです。全体的には我々が言わんとしていたことをまとめていただいていると思いますが、表現と言いますか、意見としては私のイメージしていたものとは少々異なるかなと。

前回、まちづくり報告書の概要に係るサマリーが必要ではないかというお話をしましたが、部局横断的な評価という観点ではそれに加えて、横ぐしを通した別冊のものをご用意いただくのが望ましいと思います。各分野あるいはテーマ、例えば緑の保全であるとか色々と考えられると思いますが、それらテーマごとに横ぐしを差した別冊を用意するイメージです。

確かにそういったものを作るのは大変ですから、安直にやってくださいというのも申し訳ないですが。読み手が頭の中で横ぐしを差さなければならぬという手間を考えると、テーマごとに横ぐしを差した別冊があると、読み手の理解の促進に繋がると思います。

そのため、「(3) 部局横断的な評価について」については、主管課や関連課の表記の見直しや定義・説明の見直しをするという内容だけでは不足がある印象があります。

(会長)

有難う御座いました。

横ぐしを差すことについての議論は非常に活発に行われましたから、横ぐしという言葉を含め、答申(案)ではそこにあまり触れられていない、審議会での意見があまり反映されていない印象はあります。首藤委員が仰ったようなご意見ですとか、あるいはこれまでの審議の中で出た、成果指標を横ぐしのツールとして捉え、主管課、関連課で共有するという意見については、今後表現等の工夫をして答申への反映を試みるというか、そういうことで宜しいですか。

(首藤委員)

はい。

(会長)

有難う御座いました。

他にはいかがでしょうか。それでは、洞下委員お願いします。

(洞下委員)

答申(案)については、皆さんの意見をうまくまとめていただいていると思うので、これで良いと思います。確かに細かい指摘や意見について記載されていない部分はありますが、重要だと思われる部分については盛り込まれていますので。

(会長)

有難う御座いました。

浅川委員お願いいたします。

(浅川委員)

答申(案)について、分かりやすくまとめていただいて有難う御座います。

内容について、1箇所、気になった表現があります。「(2)各事業の活動や成果の「見える化」について」の部分ですが、段落の1番下から2行目に「…職員に指導し…」の、指導という表現について、上から目線と言いますか、そもそも誰が指導をするのかと言いますか…。指導というよりは、全ての職員が市の事業等の成果を市民にいかに伝えるかを考えていく、職員が一丸となって活発の議論を展開し次につなげていくというイメージであると思いますので、指導という表現を、「職員全体で精査し」、ですとか、「職員間で議論を活性化させ」ですとか…今良い言葉は浮かんでこないのですが、そういった表現にした方が、私としては気持ちが伝わるかなと思いました。

(会長)

確かに、こちらの部分だけに「職員に指導し、」という言葉が出てくるのは違和感があるかもしれません。職員全体で進めるといった話ですので、それらを踏まえ表現を再検討させていただくということで宜しいでしょうか。

では、次に石田委員、お願いいたします。

(石田委員)

答申(案)の作成を有難う御座いました。お疲れ様でした。

拝見したところ、様々な意見をきっちりとまとめていただいていますので、私としては特に気になる点はございません。これで宜しいのではないかなと思います。

(会長)

有難う御座いました。

次に岩淵委員、お願いいたします。

(岩淵委員)

私も、石田委員と同様、色々な議論を非常にコンパクトにわかりやすくまとめていただいていると思います。確かに、先程浅川委員からご指摘のあった「…職員に指導し、」の指導の部分の語句の表現については気になりましたが、それ以外は特にございません。

(会長)

有難う御座いました。

石合委員、お願いいたします。

(石合委員)

全体の流れや細かい語句についての意見は特にございません。内容につきましても、審議会で出た意見を良くまとめていただいていると思いますので問題ないと思います。

一方で、論点はズレてしまうかもしれませんが、個人的な意見を述べさせていただきますと、まちづくり報告書については今後も継続してHP等で公表していただきたいと思っております。公表を継続していただくことで、結果について、どのような変遷を辿っているのか、何がどのように変わっていったのか等が分かりやすくなると思いますし、そうすることによって、より良い活用が出来るのではないかと考えています。

更に言えば、毎年公表するだけでなく、報告書の内容や進捗を定期的

に見直す、例えば半年に1回ですとか四半期に1回ですとか、そうすることにより職員の方々の気づきや、庁内での報告書の活用の活性化にも繋がるのではないかと思いました。

(会長)

有難う御座いました。

事務局に質問ですが、まちづくり報告書は1年に1回は作成期間が設けられ、報告書の情報公開がなされるという理解で宜しいですよ。

(事務局) 佐藤課長

はい。仰る通りです。

(会長)

石合委員からいただいた意見につきましては、答申(案)の最後に「…行政改革の不断の努力が今後も確実に継続…」と記載がありますので、こちらに少し反映されているという認識で宜しいでしょうか。

(石合委員)

はい。

(会長)

有難う御座いました。

では井田副会長、お願いいたします。

(副会長)

これまでの審議会を通して、市民の立場から色々発言させていただきました。指標については、事務局より、他自治体との比較は実務上難しいという説明を受けましたが、答申(案)には他市比較の件について盛り込まれており、審議の形跡がこうして表現されていることは良いことだと思います。

一方で、縦割り・横ぐしに関する議論が十分に答申(案)に反映されているのだろうか、個人的には少し思うところもあります。しかし、審議委員の皆さんが、良くまとまった文章が練られているというように



受け止められているようなので、委員の皆さんがそのように感じておられるのであれば、より多くの人にも伝わるような文章になっているのではないかなと思います。

(会長)

有難う御座いました。

答申(案)について、どうしてもこの A4 サイズの用紙で 2 枚半くらいに収めるということで、ある程度、どうしても抽象的な表現となってしまう点については、止むを得ないところがあると思います。最終的に市に、この審議会としての考えや議論の内容が伝われば良いと思っております。

一通り皆様のご意見を伺いましたので、次に表現ですとか、語句ですとか、或いはその他の気付きがありましたら、些細なことでも結構ですので何かご意見があれば宜しくお願いいたします。

私からは、1 点宜しいでしょうか。タイトルの配置についてですが、答申(案)の 1 ページ目の「1 まちづくり報告書の評価について」の部分。こちらについて、現状の位置ではなく、「(1) 俯瞰的な視点からの評価について」の前に持ってくる方が良いと思います。

理由を申し上げますと、「流山市が令和 2 年度から…」という部分においては、いわばメインの内容に行く前の導入部分であると思います。ですから、本題の「(1) 俯瞰的な視点からの評価について」の前にもってくるほうが構成上は宜しいのでは無いかと思いますがいかがでしょうか。

宜しいですね。細かい気付きではありますが、このように皆様からもご意見を頂戴できればと思います。

(副会長)

「(1) 俯瞰的な視点からの評価について」のところですが、こちらの 2 段落目の一文について「…時系列データが前年と今年のみで…」となっているのを、「…時系列データが前年度と今年度のみで…」というように、度を入れていただくと良いかと思います。

あと、3 ページ目のまとめの、「…行政評価のツールとしての有効な活用のみでなく、市民が行政の方向性や進捗に関する情報を入手するた

めの…」、この「方向性や進捗」、という表現についてです。

市が展開する事業には、市民の生活を支えるために必須となる事業と、現状を更に高めるような事業の両方がある。これらを合わせると凄いボリュームになると思うんですね。実際に実施している事業のボリューム感と言いますか、…確か首藤委員でしたか、コストの配分が分かりにくく、読み手が事業にかかった経費を計算しなければならないというようなご意見があったように記憶しています。このご意見について上手く表現する言葉が答申に入ってくると良いかなと思います。

(会長)

分かりました。

そちらの意見に関しましては、私の記憶では確か岡村委員からのご指摘であったように思います。各政策内での予算配分をより明確に明示してはどうかと、そうすることで市がどこに注力しているのか視覚的に把握できるので評価の参考にもしやすいはずだと、そういったご意見だったと。

もし、この内容を反映するのであれば、「(1) 俯瞰的な視点からの評価について」の部分の第2段落目あたりに、各政策などの予算配分が明示されていない旨を盛り込むのはいかがでしょうか。岡村委員、いかがでしょうか。

(岡村委員)

確かに表現が難しいのかなと思います、どのように表現すれば良いでしょうかね。また、人件費の配分の記載もありますので、人をどれだけ導入しているのかという点についても、確かに計算すれば出てくると。それを言葉として表現するとなると…。

(会長)

市としての力点と言いますか、結果的にどうであったかですとか、市が重視しているところが明示されていると、政策の実施のトレースと言いますか、そういったことがやりやすくなる、そういう趣旨で御座いますでしょうか。

(岡村委員)

そうですね。限りある予算の中で、どこに今年度は重点的に予算を付けているのかですとか、その結果を視覚的に把握できると判断材料として活用しやすいといった話だと思いますけれども。市民にとっても分かりやすいのではと思いますね。

(会長)

では、答申の最終調整の際の検討課題とさせていただきます。有難う御座いました。その他にはいかがでしょうか。

では、当審議会終了後、本日皆様にお寄せいただいた意見を含め、再度私と副会長で答申(案)を見直し、事務局と相談の上、精査し仕上げるということで宜しいでしょうか。また、完成した答申につきましては、市長へ答申する前に、今一度皆様にお送りいたします。皆様には、それを確認いただき、ご意見があれば、そのご意見を反映するかどうか我々で再検討させていただくことということで宜しいでしょうか。

はい、有難う御座います。では、そのように今後につきましては進めたいと思います。事務局につきましてもそれで宜しいでしょうか。

(事務局) 佐藤課長

はい。

(会長)

はい、ではそういうことで。

(岡村委員)

ひとつ教えていただきたいのですが、まちの状態指標についてです。各事業の活動指標や成果指標はそれぞれの課においてチェックされていると思います。まちの状態指標については、特に目標値は定められていない代わりに目指す方向が示されていますが、実績値の管理や分析、評価はどこかで行われているのでしょうか。

(事務局) 佐藤課長

岡村委員が仰った部分につきましては、例えば、まちづくり報告書の

8 ページ目をご覧くださいいただけますでしょうか。施策「防災」の上段に「まちの状態指標」、「指標の説明または出典元」、「H30 実績」、「R1 実績」、「R2 実績」、「目指す方向」とありますが、こちらに関するご意見かと思えます。

こちらの内容につきましては、主管部局が確認しており、また当然、市長、副市長についても確認しております。

(岡村委員)

有難う御座います。

何故、このような質問をさせていただいたかという、今、例に挙げた施策「防災」ですと、まちの状態指標「地震などの災害に対する備えが十分だと思える市民の割合」と設定されていますよね。この指標に関連する課は、防災危機管理課や河川課、上下水道局など様々です。ですから、まちの状態指標を主管部課や関連課で共有すると、先程の議論にもありました横断的な評価、横ぐし的な評価に繋がってくるのではないかと思います。既にこういった取り組みを行われているのであれば、そのことについて答申に記載があると、縦割りだけではない印象も出てくるのかなという気がしました。

(事務局) 佐藤課長

有難う御座いました。

まちの状態指標につきましては、組織横断的な評価の面において、確かに指標の共有を図ってはいますが、まだ十分でないというように認識しておりますので、今後努めていきたいと考えております。

(会長)

「(3) 部局横断的な評価について」の部分に、成果指標の共有について言及している部分がありますので、まちの状態指標を上手く活用して横ぐし的に、横断的に、共有・利用する等、そういった表現を入れ意味合いを持たせるという事で宜しいですか。

(岡村委員)

はい。

(会長)

はい。ではそれも1つの検討材料とします。

他にはいかがでしょうか。あとは会長・副会長預かりとさせていただいてよろしいでしょうか。

はい、それでは、議題1は以上とします。最後に、議題2「その他」として、事務局から今後の予定について説明をお願いします。

(事務局) 佐藤課長

今年度の審議会は、今回で終了となります。

今後は、会長・副会長に答申書を調整頂いたあと、委員の皆様にご確認いただき、特段何もなければ市長に答申することになります。

日程は、9月17日を予定しています。

(事務局) 須郷部長

皆様には令和元年9月から本日まで、大変お忙しい中、貴重なご意見やご審議をいただきまして、心より感謝申し上げます。

頂戴したご意見は、今年度のまちづくり報告書のみならず、今後の市政運営に活かしてまいりたいと考えております。

長期間にわたり、誠にありがとうございました。

(会長)

有難う御座いました。

以上をもちまして、本日の第4回行財政改革審議会は終了とします。

皆様、長きに渡るご審議、お疲れさまでした。